

令和6年度PDCAサイクル実施計画／管理表

部署名	実施計画(P)				実施管理		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	評価	3月末時点の見込み	次年度へ向けての改善内容
がん診療センター	がん術後連携パスの整備	・院内においてがん術後連携パスの運用が十分ではない ・連携医療機関が十分ではない	・パス使用診療科へのサポート ・提携先医療機関を増やす ・パスの内容の定期的な見直し	2025年3月	○	乳がんパスについては内容の見直しを行う予定 新たな地域連携パスの連携先としては5件獲得	・パス使用診療科へのサポート ・提携先医療機関を増やす ・パスの内容の定期的な見直し
	業務の見える化	がん診療センターの事務局が、経営企画課となり、組織として対応する必要がある。	がん診療センターミーティングを毎週開催し、課題の見える化と進捗管理を確実に行う。 がんに関する書類・ファイルの一元管理する仕組みの構築	2025年3月	△	がん診療センターのミーティングを毎週開催し、大小55事例の取り組みを実行した。 ファイルの一元管理は、年度内に完了するか微妙な状況である	がんに関する書類の一元管理 事務担当の世代交代
放射線治療センター	放射線治療を必要とする患者への機会拡大	がんの進行に伴う様々な症状の軽減・緩和への放射線治療介入が十分とはいえない。	1. 骨転移等の診断・治療の院内・院外の連携。 2. 放射線治療の正しい情報提供と放射線治療教育の推進。 3. 院内多職種からの情報収集とアプローチ。	2025年3月	○	・キャンサーボード、カンファレンスへの参加。 ・他診療科、他部署からの情報収集と連携。 ・神経内分泌腫瘍の放射線治療(ルテチウム-177)について相談できる病院検索サイトへの登録。 ・在宅医療機関と面談し、運用フローの確認・調整を行った。	・がん放射線治療適応の周知。 ・継続した他診療科、他部署及び他医療機関との継続した連携。 ・運用方法の継続した見直し。 ・対象放射線治療件数の増加。
	放射線治療患者への支援	放射線治療の内容(メリット・デメリット)や方法など内容が膨大で、患者(家族)が理解しにくい。	1. 事前の情報提供で理解を深める。 2. 音声・動画等で端的にわかりやすく。 3. 説明内容不備の排除。	2025年3月	○	・音声入り説明用動画を各治療部位、治療方法毎に作成し、運用開始に向け、修正・改良を加えた。(20項目。パワーポイントを利用。) ・院内運用を開始。	・運用方法の拡大と見直し ・適宜、修正・改良の実施 ・診察時間の短縮
化学療法センター	安全な治療の提供	GSTD(閉鎖式薬物移送システム)の導入が遅れている	1. レジメンの修正 2. 使用の問題点の洗い出しと修正 3. GSTDの定着	2025年3月	△	GSTD導入に伴うレジメンの修正は済み。外来、6東西は導入済み。他病棟は2/10～勉強会を順次開始、3/3～全抗がん薬に導入予定。	GSTDの使用状況、正しい使用ができているかの確認。困りごとへの対応。
		アナフィラキシー対応に不慣れ	1.アナフィラキシー、IR(インフュージョンリアクション)の勉強会の開催 2.アナフィラキシー、IRが発生した場合の情報共有と振り返り	2025年3月	○	アナフィラキシーのシュミレーション研修を実施。化学療法室で発生したアナフィラキシーにアドレナリン投与、当番医・RRSコールなどフローに沿って適切に対応できた。	アナフィラキシーの継続研修。
		治療件数に伴った看護師の確保が困難	1. 6西病棟との一元化に伴う、外来化学療法に携わる看護師の育成 2. 効率的なベッドコントロール	2025年3月	○	化学療法室に携わる看護師の育成ができ、治療件数により4～7名の配置ができた。	外来での治療件数が増えており、今後もさらに増えてくることが見込まれる。課題として治療件数に見合った看護師の確保が挙げられる。

部署名	実施計画(P)				実施管理		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	評価	3月末時点の見込み	次年度へ向けての改善内容
緩和ケアセンター	QOLを重視した高度で良質な症状緩和の医療を提供	緩和医療科入院対象を消化器内科・外科に加え2023年2月より呼吸器内科も追加した。運用継続とケア提供の充実を図ることが重要。	1. 年30件以上の維持を目指し、該当しそうな症例がいれば積極的に主治医へ働きかける	2025年3月	○	1月現在で転科含めて30件達成。	継続
		がん患者の苦痛の把握及び適切な対応ができるよう、苦痛のスクリーニングを継続するとともに、患者報告アウトカム(PRO:Patient Reported Outcome)の活用が求められている。 今年度より全病棟運用開始。	1. 苦痛のスクリーニング継続と評価PCT(緩和ケアチーム)依頼へ繋がった件数を調査 2. 痛み日記の活用と運用評価	2025年3月	○	苦痛のスクリーニングからPCT依頼へ繋がった件数は20件。 痛み日記の活用件数は26件。PCT専従Ns、リンクナースを中心に運用拡大中。	1、引き続きスクリーニングで陽性者については病棟内で検討し、必要に応じてPCT依頼へつなげていただく 2、痛み日記についての周知が十分ではないため、バリテスを利用し周知活動をしていく
がん相談支援センター	がん相談件数	メンバー退職のため相談員の減少に伴う相談件数の減少が予測される	1、相談件数を維持し2500件を目指す 2、新規職員の基礎研修への受講を進める	2025年3月	△	1、相談件数1656件(月平均184件) 2、新規職員の基礎研修終了	相談員、患者の人数に応じた適切な目標を設定する
	患者サロン	コロナ禍以降、感染状況による制約あり	1、飲食等も含めてホスピタリティについての検討 2、入院患者の参加の是非など参加対象者の検討	2025年3月	○	1、飲食の再開については院内感染対策から解除が出来ない状況。参加者への出席カード配布等で継続参加に繋がる工夫を行なっている 2、0番会議で入院患者参加は「条件付可」となったため病棟でのポスター掲示を再開した	継続
	告知後のがん相談支援センターへの来訪	告知後にがん相談支援センターに立ち寄る患者が少ない	1、カンファレンスなどで医師向けに運用方法の説明を実施 2、外来クランクを対象とした説明会の実施、広報活動の充実	2025年3月	○	1、医局会にて説明を実施 2、コメディックスによる院内広報を毎月実施 3、外来クランクへの説明用紙を配付、掲示	継続
	グリーフケアリーフレットの周知と活用	グリーフケアリーフレットの運用方法が未定	1、グリーフケアリーフレットの運用 2、院内スタッフへの情報提供等の広報活動	2025年3月	○	1、リーフレット完成 2、院内スタッフ、院外関係機関への勉強会を実施した	終結
がんゲノム診療センター	遺伝カウンセラーの育成	常勤遺伝カウンセラーが不在	浜松医科大学からの定期的な非常勤派遣を継続し、その間に育成する	2026年3月	△	非常勤派遣	常勤職員で資格取得できるような支援
	院内エキスパートパネルの実施	全てのエキスパートパネルを静岡県立がんセンターにお願いしているが、がんゲノム医療連携病院にもエキパネの実施が進みつつある。	令和6年2月27日付けの通知に基づき、実施の可否も含めて情報収集を進める	2025年3月	○	2/1付けで認定施設となった	紛れの少ない症例から症例数を増やす

部署名	実施計画(P)				実施管理		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	評価	3月末時点の見込み	次年度へ向けての改善内容
地域医療支援センター	がん教育の拡大	1. 講座件数が増加傾向。 (今年度は5月末時点で小:1、中:4、高:1の申込みがある) 2. 進級に伴い継続した教育を受けられるようにする。	1. がん教育以外の出前講座を依頼している中学校に働きかける。 2. 段階的教育の提供が可能で、3年間の継続教育に繋がる働きかけをする。	2025年3月	△	講座件数8件。(特支:1,小:1,中:4,高:2) 依頼のあった学校の養護教諭に意見を伺い課題を抽出。 次年度の出前講座を1/31にホームページへup	がんの出前講座は今まではマンパワーの問題もあり磐田市内に限っていたが、袋井市や森町へ拡大できるよう検討中
	市民公開講座の開催	年間2回の開催のうち、1回は「がん」に関連した開催を実施している。	1.新型コロナウイルス感染症が5類に移行して初めての開催となった。「肺がん」をテーマに行い、当日来場者は125名であった。開催後はYoutubeで配信する。	2025年4月	△	2025年4月12日(土)に開催予定。 テーマは「がんとの共存・共生」で行う。 泌尿器科・乳腺外科・認定看護師で講師をしていただく。	次年度の4月に開催する内容の結果をしっかりと確認し、がん診療センターと情報を共有していく。
院内がん登録	がん登録情報の公開	がん登録情報を集計し継続して情報公開に努めていく。	1. 2023年症例登録完了提出後速やかに(2024年秋頃)集計した資料をホームページへ公開する。 2. 今年度は、前立腺がん、胃がんの登録情報を集計し院内掲示する。	2025年3月	○	・2023年症例の集計結果はホームページに公開。 ・前立腺がん、胃がんの登録情報集計も院内掲示済。	次年度、肝がんについて公開予定。
	がん登録室のPR	令和5年度までは委託していたがん登録を、当院職員で行うようになった。今後も継続的に行うには人材の確保と育成が必要。	がん登録の資格取得には時間がかかる(初級→1年、中級→3年) 院内で興味を持ってくれる職員に情報提供を行う。	2025年3月	○	がん登録資格受験の声かけを実施。、1名の初級資格合格。	次年度に向けた資格のアナウンスに努める。
リハビリテーション技術科	がん患者に対するリハビリテーションの提供体制の充実	人員要因によるがんリハの取り漏れがある。	・がんリハ資格を有する技師の計画的な育成(理学療法士2名・作業療法士1名・言語聴覚士1名)	2025年3月	△	今年度ががんリハ資格者増加は未達成であるが、来年度早期に研修参加を予定する。	引き続きがんリハ資格者の増加に努める。
	がん患者に対するリハビリテーションの充実	がんリハ実施件数が伸び悩んでいる。	・実施件数(2023年度:6,713件)→目標6,800件へ増加する。	2025年3月	○	1月末の時点にて5,676件、3月にて6,800件達成見込み。	引き続きがんリハ算定件数の増加に努める。

部署名	実施計画(P)				実施管理		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	評価	3月末時点の見込み	次年度へ向けての改善内容
薬剤室	連携充実加算算定件数の増加	現在の初回投与後の副作用確認での介入だけでは算定件数の増加が今以上には見込めない。対象患者や介入タイミングを増やす必要がある。	・患者に記載してもらう副作用申告シートなどの指導補助ツールの作成 ・がん薬物療法体制充実加算の算定に伴う薬剤師外来の活用	2025年3月	△	算定件数はほぼ横ばい	・がん患者指導管理料ハ算定のための指導との棲み分け ・指導体制の再構築
	がん薬物療法体制充実加算の算定開始	2024年度診療報酬改定において新設された。	・算定を開始するための薬剤師外来の開設 ・薬剤師外来開設に伴うハード面、ソフト面の準備 ・限られた人員での効率的な指導体制の検討	2025年3月	○	2024年10月から算定を開始	算定件数の増加を図る
臨床研究管理室	静岡県がん治験NW受託研究における研究実施支援	県内がん拠点病院が参加する研究の実施にあたり、患者対応は終了したが、クエリ対応等継続するため支援側の経験を補う知識が必要。	知識向上のため、CRC(治験コーディネーター)のがん領域研修への積極的な参加を勧める。	2025年3月	○	あり方会議等の学会やがんセンター等が行っている勉強会を積極的に聴講している。	個人差があるモチベーションの向上、知識量の更なる向上
	がん関連特定臨床研究体制の構築	特定臨床研究は臨床研究法に基づき実施されるが、今年度重篤な有害事象等への対応遅滞が数件発生してしまった。	研究者・CRC両者の感知が遅れることがないようコミュニケーションと情報共有を図り、法を逸脱することがないようにする。研究者の意識向上およびCRCの細やかな配慮が必要。	2025年3月	○	担当CRCが研究責任医師等と積極的に連絡を取り合うよう心がけた。また、被験者の研究規定日だけではなく規定外来院にも対応するなど、CRC側で感知が遅れないよう対策を講じた。	引き続き対応を継続
栄養管理室	食欲不振食の定期見直し	がん化学療法時の食欲不振食の対応	好まれる料理を追加 季節ごとのバリエーション追加	2025年3月	○	喫食率を確認し献立の入れ替え 行事食に沿ったメニュー展開	厨房の作業動線を配慮した献立作成
	化学療法室での栄養指導	介入時期の見直し 継続介入の基準設定	初回化学療法時に栄養指導実施 継続介入の基準に体重を組み入れる	2025年3月	○	新規治療患者の2回目治療時に栄養指導設定 食欲不振以外に体重減少している患者に介入している	全患者への栄養評価が可能となる仕組み作り
	栄養サポートチームとの連携	入院患者への栄養管理	GLIM診断基準により低栄養と診断された患者へのNST(栄養サポートチーム)介入	2025年3月	○	4西病等単独のNSTの新規チーム立ち上げ	病棟NST担当看護師との連携

部署名	実施計画(P)				実施管理		
	課題名	現状の問題点	改善のあり方	改善時期(予定)	評価	3月末時点の見込み	次年度へ向けての改善内容
健診センター	生活習慣の見直しからのがん予防(特定保健指導の実施率向上)	特定保健指導の実施は本人の意志に委ねられている	行動変容を促す情報の提示(ステージによるアプローチ方法の整理)	2025年3月	○	看護部より健診センター保健師0.5人の増員。また、12月より、医事課で健診センター専属の会計年度保健師を新規採用し、特定保健指導実施率の向上を図った。	保健師の育成と保健師間の情報共有により、特定保健指導へのアプローチ方法の整理を進め、更なる受診率の向上を目指す。
		生活習慣病の予防や生活習慣改善に関する、意識や意欲の持ち方が人それぞれである	対象者が健康的な生活を維持できるよう支援(重症化の予防)	2025年3月	○	保健師増員により特定保健指導実施率が向上	保健師の育成と保健師間の情報共有により、特定保健指導内容の充実を目指す。
		健診結果が十分に活用されていない	健診結果をスマホから参照する機能の活用 磐田市が推進するヘルスケアアプリ実証実験への参加	2025年3月	○	一般受診者へ結果QRコード配布を継続	磐田市が推進するヘルスケアアプリ実証実験の結果分析により、今後導入すべきシステムを検討する。
	がん検診の受診率や精検率の向上	任意であるため、標準検査項目に含まれているが検査を受けない場合や、オプション検査となるので費用面で受けない場合がある。健診受診後の対応や行動は本人次第である。	1. 精度管理された国の指針に基づいたがん検診の提供 2. 健保との連携を深め、受診者への有益な情報の提供 3. 精検への受診勧奨	2025年3月	○	オプション検査売上比率は若干向上。 がんの疑いがある受診者には、通常より早い結果報告を行い、早期に精検への受診勧奨を行っている。	活動の継続